

# 廣讚寺

ジャーナル

第186号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

## 地下鉄の中で

得度を受けた小学四年の二学期に怪我をしました。

そして中村日赤に診察や検査で何度も通いました。

中村日赤ではいくつかの検査を受けました。脳波の検査では当時は頭に針を刺して測りました。ものすごく痛かった記憶があります。そんな憂鬱な通院。診察の結果はどうなのだろうか、今日も痛いのか、古い建物の中村日赤は子ども心に恐怖の館でした。母親に連れられ名古屋駅から中村日赤まで地下鉄で通いました。名古屋、亀島、本陣、中村日赤。五分ほどで着いてしまうのですが、これがとても長く感じられました。いつも地下鉄に乗ったときくらいから気持ちが悪くなり

立っているのも苦痛で、病院の待合室ではすっかり寝込んでいました。

今、地下鉄に乗り中村日赤から名古屋方向へ向かう時にいつも思い出します。なぜあのときの五分は三十分以上に感じられたのか。

大人になり何十年もたちますが、そのときの鮮明な記憶により、子どもの頃の自分と対話ができる時でもあります。



## 浄土真宗から「輪廻」をどう語るのか

田中智教

前回の寄稿した文章に読者から寄せられたコメントとして「輪廻観について考えさせられる」とのお声をいただきました。おそらく、前世という言葉を用いたからだと思います。

また、ゲームの影響でしょうか、「輪廻転生」との言葉をインターネット上でよく見かけるようになりました。なにか、リセットをすれば、また別の新しい人生が訪れ、明るい未来が待っているかのような幻想を抱きます。

この「輪廻」について、手元の『仏教学辞典』には「車の輪が廻ってはてしないように、衆生が煩惱と業によって、三界六道の迷いの世界を生まれ変わり死に変わりして巡ってやまないこと」とあります。この「生

まれ変わり死に変わり」ということについて、積極的な理解ができず、また、親鸞聖人の理解についても十分に学びとることができていません。

そこで、覚如上人の『口伝鈔』の言葉に注目してみたいと思います。

## 「本文」

なかんづくに、曠劫流転の世々生々の芳契、今生をもつて、輪転の結句とし、愛執愛着のかりのやど、この人界の火宅出離の旧里たるべきあいだ、依正二報ともに、いかでかなごりおしからざらん。(中略) 浄土往生の信心成就したらんにつけても、このたびが輪廻生死のはてなれば、なげきもかなしみも、もつともふかかるべきについて、あとまくらにならびいて、悲歎嗚咽し、ひだりみぎに群集して、恋慕涕泣すとも、さらにそれによるべからず。

(『真宗聖典』六七〇頁・六七二頁)

## 「意識」

とりわけ、はるかに長い間、数えきれないほどの輪廻を重ねて数多くの縁を結んできたが、この生をもつて流転輪廻るてりんねの最後となるのです。愛によって執着するこの世も所詮は仮の宿であり、煩惱の燃え盛った迷いの人間界であるが、同時に、懐かしいふるさとでもあるため、この世界やここで出会った人たちとの別れとなると名残り惜しくないはずがない。(中略) 浄土に往生すると信じきったとしても、この生が輪廻の最後であるから、嘆きも悲しみも最も深く、病人の足もとや枕もとに並び座って悲嘆や嗚咽、または左右に集まって恋しく慕って涙を流すことがあっても、往生の妨げになることはありません。

これは、『口伝鈔』第十七条にある言葉で、「凡夫ら

しさ」について語られた条です。このことからすれば、「愚禿ぐとくしやくしんらん釈親鸞」と名乗り自身の凡夫性を徹底して見つめられた親鸞聖人の思想的理解として「輪廻」を考えるならば、単純に「生まれ変わり死に変わり」する存在と見ていくことより、私もあなたも「生まれ死にゆく」ことの悲しみから目を背けずそむ、今生を生きぬいていくことの重要性が教えられるような気がします。皆さまはいかがお考えでしょうか。



## 太陽

今年五月にコロナが5類に引き下げられマスク着用も個人判断ということになりました。その後マスクをしている人は半分くらいいました。感染予防のためだったり、顔を隠したかったり、ホコリや花粉予防だったりと理由はさまざまでした。しかし35度を超える夏になり、マスクをする人が急激に減ってきました。

『太陽と北風』という童話をご存知でしょうか。人たちの服を脱がせようと競争する物語で、北風は風を吹かせて人間の服を飛ばそうとしますが失敗し、結局は太陽が人間に暖かさを与えて服を脱がせるという話です。

マスク着用も結果的には暑い太陽がはずさせた形になったようです。しかし涼しくなるとまたマスクが増えるかもしれませんが、酷暑でのマスクは本当に地獄です。

## 行事予定

九月二十三日(祝) 十時 秋季彼岸永代経

説教師 駐在 岩田好司

九月二十八日(木) 十時 親鸞聖人ご命日のお勤め

同朋会例会

(同朋会地区委員は十五分前に集合)

